

SSKU

高次脳機能障害を考える

サークルエコー

Vol.40 (2010年6月)



2010年3月30日 こどもの国にて

サークルエコーは



事故や病気によって脳にダメージを受けると、新しいことが覚えにくくなったり、意欲が低下したり、感情のコントロールが難しくなるなどのため、社会生活の様々な場面で問題が生じることがあります。このような後遺症を高次脳機能障害といいます。

目に見えにくい障害のため、社会の理解を得にくいこと、したがって現行の福祉制度を利用することが難しい点が大きな問題となっています。

サークルエコーは、高次脳機能障害をとりまく問題の中で、特に、日常生活にも援助が必要な人たちの問題に取り組んでいます。

ホームページ <http://www.circle-echo.com/>
(会報がカラーで見られます)

目次

レポート	2
前に進み続けるために	4
自転車への情熱が回復を支える	5
メーリングリストから	6
動向	9
活動報告	11



去る2月28日、NPO法人東京高次脳機能障害協議会（TKK）の主催で、第一部「高次脳機能障害者のためのボランティア（支援者）養成講座 - 5 - と第二部 TKK 家族の相談交流会が開催されました。その内容を要約しました。場所は日本財団ビル・大会議室（東京・赤坂）

第1部

・中島八十一氏（国立障害者リハビリテーションセンター学院長）から「高次脳機能障害者支援 - これまでとこれから」と題した講演がありました。

最初に「障害」の変遷についてお話がありました。障がい、障碍等、表記されるようになってきたこと、WHOの障害の定義、「何ができないか」から「何ができる」へ、環境次第では障害になる、というように考え方が変わり、障害問題は大きく取り上げられるようになったと述べられました。

そして、高次脳機能障害のモデル事業は研究と事業が同時に進められ、短い期間で普及事業まで進められた画期的なものであり、連続したケアを目指したものであると。

平成20年からの「重点施策実施5か年計画」（全国に支援拠点の設置、リハビリ技法の確立、都道府県支援）障害者制度改革推進体制設置により福祉法制が変わろうとしており、注目しなければならない。「制度があっても利用できないサービスがある」という問題に対しては、トップダウンとボトムアップの融合が必要。これには家族の働きは大きな役割がある等。そして最後に「『重い方が生きがいを持てるように』が宿題となっている」と述べられ、サークルエコーに身をおくものとして意を強く感じました。このほか相談支援事業のあり方、ネットワークの構築の大切さなどの説明がありました。歴史的背景からのお話であり、我々家族の皆さんもなるほどと思われたのではないのでしょうか。

・「当事者・家族の思いと実情」と題し、当事者と介護家族からの報告です。お二方とも発症後、20数年という長い時間の経過があり、その間の思いが切々と語られました。

高次脳機能障害者の会ハイリハ東京の当事者の報告から

交通事故。大きな身体障害が残り、元の会社に戻ったが、体がついて来ない。体が慣れてきたが出来ないものは出来ない、心まで卑屈になり、会社を辞めた。家族も苦しんだ。ハローワークに行った。障害者雇用でも学卒は正社員、中途障害者は正社員になれない。納得できないがこれが実態。中途障害者の就職は身障者手帳が大変便利だが、継続雇用は持っていないとこせなければダメ。要求は通らない。今は嘱託社員で働いている。正社員になる事は厳しい。納得が行かなくとも働いて賃金を得て生きていかねばならない。病態の回復はこれ以上望めないが「障害を受け入れ納得して生きていく」と結ばれた。

働く事は権利だし、支援の体制作りが必要だと感じます。

脳外傷友の会「ナナ」東京地区会のご家族の報告から

25年前、当時11歳だった長男の交通事故。中学校は便宜を図ってくれた。養護学校はほんとした3年間だった。就職したが適合困難。職業訓練を受けたがやはり勤務継続困難、退社。現在は神奈リハでのリハビリ、工房での軽作業、休日は家族と、といった生活。記憶力が極端に低く、言語障害があり、精神的に成長がなく、社会経験も未熟でこのまま進歩も望めないのではと懸念。望む事は、気長でおおらかなサポート・自信を持たせる・声掛けを積極的に・年齢差の考慮・ショートスティの場の増加等挙げられました。このように高次脳機能障害は長期に渉るケースが多い。

家族の負担もなく、本人も「自立」した生活のできる社会が早急に出来る事が望めます。

第2部 TKK 家族の相談交流会

在京の高次脳機能障害関連団体による連合会のTKKは、2003年、6団体でスタートしました。NPO法人となって2年、新入会の団体も増えたことから、この機会に、全13団体の代表たちが、それぞれの会の活動を紹介しました。以下サークルエコーを除く12団体の活動の概要です。

高次脳機能障害者の集い調布ドリーム

「1人のリハビリはつまらないがみんなでやれば楽しくなる」をモットーに、リハビリプログラムを週3日実施。そのほか、ドリームサロンの開催、福祉イベントに参加、旅行、「ドリームごよみ」を毎月発行。

高次脳機能障害若者の会「ハイリハ東京」

若い当事者が大勢参加。都内各所で奇数月に定例会を開催。就労・就学・復職・復学等経験者が在籍。主に情報交換と交流を活動の内容にしています。関連家族会に「ハイリハ千葉」「ハイリハキッズ」があります。

脳外傷友の会「ナナ」東京地区会

会員相互の交流を中心に、ミニ学習会・親睦会の開催。当事者へはボランティアの協力を得てリハビリテーションにつながるようになっています。

高次脳機能障害 家族会 かつしか

当事者と家族が孤立しないように情報交換の場として、教え合い、励まし合い、親睦を深める場。ウエルピアにて家族会開催。奇数月第3木曜に家族会、（毎月第3土曜に勉強会・講習会・講演会を開催）

高次脳機能障害者自主グループ「コージーズ Kozy's」

高次脳機能障害当事者とボランティアの自主グループです。世田谷区を中心としたお祭りやイベントに参加しながら、当事者、ボランティアとの交流、高次脳機能障害を地域の方に知っていただく活動を中心にしています。

高次脳機能障害若者の会「メビウスのWA」

国分寺で月1回定例会の開催。当事者向け（ボウリング大会、運動会、調理実習など）をしながら、地域への障がいの啓発活動、ピア・カウンセリング、家族間の情報交換。

高次脳機能障害者と家族の会

原因を問わないが、中高年が比較的多い。世田谷、杉並、練馬、新宿、大田、品川、西東京、国立、八王子、多摩に支部。「こーじ通信」の発行。政策提言、学習会、交流会、地域活動促進、相談業務。

世田谷高次脳機能障害連絡協議会

当事者・家族の他、医師、看護師、OT、PT、ST、施設職員、区職員、ケアマネ、ヘルパー等支援者が会員に多いのが特徴。政策提言、広報活動、講師派遣、相談業務、当事者が活躍できる場作りなど。

NPO 法人 VIVID

在宅生活調査・研究、セミナー開催などを通して地域生活に役立つ支援づくりを目指し活動。ミニディサービス（月2回）・相談事業等実施。会報「VIVID LETTER」の発行。

高次脳機能障害者・遷延性意識障害者とその家族の集い「なんてんの会」

偶数月に家族中心の定例会、年2～3回当事者参加の交流会。各種セミナー、勉強会参加呼びかけ。

「フォーラム 大田高次脳」

年4回の定例会。当事者、家族のレクリエーションの開催。随時講演会、必要に応じ署名活動。

猫のひげ（江東区・高次脳機能障害者と家族の会）

月1回の定例会。週3回のプログラム（パソコン、脳トレ、朗読会等）当事者と家族が共感できる場、心とむ場、リハビリの場を一緒に作っていききたい。

（高橋）



前に進み続けるために

千葉市 大宮 久美

私の主人は2004年9月、脳炎が原因で高次脳機能障害を負いました。退院後はリハビリテーション（以下リハ）やデイケアに通い、2006年11月に元の職場へ復職しております。

脳炎の始まり

2003年4月、私たちは結婚しました。当時、中小企業に勤めていた主人は将来のことを考えて転職活動を始め、翌年にはすでに新しい会社で働いていました。未来への夢と希望に満ちあふれており、少しでも早く会社の役に立てる人間になると、無理をして働いていたようです。仕事から帰って夕飯をとると、疲れてすぐ寝てしまう日々が続いていました。

そんな生活から5カ月後、突然おかしくなったと感じました。脳炎の始まりです。

主人の脳炎はまず、精神症状から始まりましたから、私も周りの人間もてっきり、転職のストレスが原因で心の病になったのだと思いました。その時にかかった病院の医者ですらそう判断し、受け取った診断書には「心因反応」と書かれていました。休職し、家で様子を見ていましたが、症状は一向に善くなりません。それどころか、ますます症状はひどくなり、寝ている時間が多くなりました。

素人ながらも「これはおかしい」と感じ、主人を無理やり車に押しこみ、違う病院に連れて行った時には、すでに危険な状態でした。脳炎悪化による痙攣重積発作、そしてその間、酸素が回らない状態だったのです。緊急入院となり、その後、意識回復まで4カ月近くかかりました。

休職している間の状況

発症から半年後のメモを見返してみると、VIQ(verbal IQ;言語性IQ)53~67の間、FIQ(full scale IQ;全検査IQ)42~52の間、PIQ(performance IQ;動作性IQ)にいたっては45未満（判定不能）と書かれています。

その後3年間、3~4回ほど検査は行われましたが、多少の改善はあったものの、記憶力、特に遅延再生については、最後まで微々たる変化しか現れておりません。

当時、「家族の理解と協力やフォローがいかに大切か」ということを病院で聞かされており、私自身もその教えに習い「1人でいろいろやらせて、失敗に終わって自信を失くさせる必要はない」と

思っていました。その結果、どこに行くにも私が付き添う状態。何か買うにも、まごつくのを見ていられず、途中で手を出したり正解を導き出すようにしたり。とにかく失敗させないよう何度も確認させて、正解から遠ければ、正解に近づくような質問に変えたりもしました。今思えば、私の自己満足だったのかもしれない。

休職期間中、月に1度は職場に近況報告を行っていました。高次脳機能障害の検査結果から、復職できた場合、できる「であろう」こととできない「であろう」こと、それにはどういうフォローが必要なのか、などの説明を行っていました。

前向きな気持ちになる

そんなある日、主人の上司に言われた言葉で、ハッとしました。

「もっといっぱい失敗しなさい。今だから許されるんだよ。落ちこむ事はないの！今できないことが、職場に戻ったらできるか？と言ったら、できないんだよ。それは君が病気だからじゃない。みんなそうだよ」と。

それを聞いた直後は、やはり見えない障害を理解してもらうのは難しいことなのだと感じました。本人の力だけではどうにもならないのが障害なのですから。

上司の言葉が何日も頭から離れず、理解ない職場への社会復帰は、もう無理なのではないかと悩みました。しかし私自身の社会経験を思い返してみても、会社は責任を伴う場であり言い訳は通用しない場であることから、上司の言葉はもっともだと、考えを改めました。「であろう」というのは憶測に過ぎず、私たちは今まで、本当の努力はしていなかったことに気付いたのでした。

それ以降、私は主人の行動1つひとつに先回りすることをやめました。その代わりに、何かあった時は失敗を責めず、理解を示すよう努め、一緒に悩んだり考えたりしました。何度も何度も同じことの繰り返しの、私の方がめげてしまいそうになった時ももちろんあります。しかし私だけでなく、主人の友人たちも同じように接してくれました。この時期、周りの支えは本当にありがたく感じました。

「本当の障害」の意味

病気になったのが、30歳の時です。やはり夫婦といえども、距離をおくことは自然であったようです。主人自身が、復職前にやるべきことは多々あることに気付き、それを何度も繰り返していくうちに、「本当の障害」が見えてきたように思います。この頃、本人に自覚が芽生え始め、冷静になっていくのを感じました。しかしそれ以上に、できることや、代償手段を身をもって考える機会が増え、自信ややる気にもつながったようです。

わが家は「自覚がある分、お宅はましよ」「症状が軽い」などと言われがちですが、初めから何でもできたわけでも、突然パッとできるようになったわけでもありません。検査の数値だけで、将来は決められない。結果ばかりに気をとられがちですが、過程もまた大切なリハなのです。数値が悪くても、できるリハはないと決めつけないで欲しいのです。

主人は今現在も、困難な点が多々あり、時に悔しい思いをすることもありますが、1歩1歩前に進む努力をしております。

努力なくして就労は難しいかもしれません。ですが、それは健常者も同じこと。リハ病院の主治医は退院時、こう言ってくれました。

「病気になってしまったけど、自分を病人だと思わないように」と。

この言葉の意味が、最近になってよりいっそう分かったような気がします。

“「臨床 作業療法」6巻6号掲載”



タイの伝統工芸 カービング
石鹸で作ってみました
(大宮久美)



自転車への情熱が回復を支える

サークルエコーの月例会「えこーたいむ」。3月27日はお花見の予定でしたが、調布ドリムが調布福祉センターで「石井雅史ご夫妻を囲む会」を開くというので、予定を変更して皆で出かけ、1月の有楽町ホールの講演で好評だったパラリンピック自転車競技メダリストの石井雅史さんと智子さんのお話を聞きました。

自転車競技の練習中に、乗用車と衝突し大怪我をした雅史さんの症状の重さに、新婚の智子さんも当初はパニックに陥ったこともあったけれど、一週間して徐々に回復して行く姿を見たら、大丈夫!?と思ったそうです。退院して在宅生活に入った頃、智子さんは1才と3才のお子様を雅史さんに残し、3時間のパート勤務を始められました。その時の雅史さんのてんやわんやの様子が語られました。

雅史さんの再起には、友人の励ましと、主治医の橋本先生との出会いが大きかったとのことでした。今も雅史さんには記憶障害が残っているので、智子さんは、スケジュール等、さりげなく確認しているそうです。

雅史さんの自転車への情熱と、智子さんの前向きな考え方が、とても印象に残りました。

この集いのあと、多摩川べりの桜並木を車で走り、田辺さん宅に集合して、茶話会を兼ねた「えこーたいむ」。帰り際、いつも静かなツンちゃんが、突然、気合いが入って、コウキ君と「アッチムイテホイ！」が始まりその様子に皆さんは大笑い。最高に盛り上がりました。

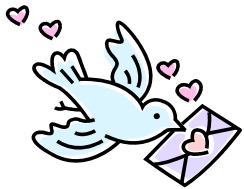
(西田)



石井雅史ご夫妻と調布ドリム代表



子どもがいると元気になるね



この欄では、会員間のメーリングリストやメール、お便りなどを紹介します。

何もしないことが失うこと。今やれることをさせたい

三重県津市 東海かえこ

2009.3.17 車ごと川に落下して

息子は、平成9年、18歳のとき、仕事に車と共に川の浅瀬に落下、心肺停止となりました。土手に車を置いたところ、サイドブレーキがかかっていなかったため、車が動き出し、止めようとしたが間に合わなかったのです。意識不明の状態が40日間つづきました。リハビリ病院を探しましたが、なかなか受け入れてもらえず、3度、転院しました。現在は、言語障害で目もあまり見えていない状態、全介護の生活です。身体障害者手帳1級で、週に5日、曜日ごとに違う通所介護施設（うち3日は、重度心身障害のデイ）に通っています。

2009.4.15 2年ぶりの検査に期待

この間、三重障害者センターで紹介していただいた高次脳を専門にされている先生に診ていただきました。講習会や、曜日ごとに違う病院に出向き診察していらっしゃる先生で、とてもお忙しいそうです。音楽療法とか、刺激のことを言って見えました。

「事故から長い時間経ったので、リハビリ等はいいでしょう？」と言われましたが、5月の末に検査入院をさせていただく予定です。事故以降、ちゃんとした検査はしていなかったもので、きちっとしていただこうと思っています。多分、全身麻酔になると思うので、それもちょっと怖い気もしますが・・・。

2009.11.11 鈴鹿でバイクに！

大変、御無沙汰しております。エコーの10周年記念誌、ありがとうございます。遠くからで何もお手伝いできませんでしたが、記念誌を読んでいて、涙が止まりませんでした。

5月の入院検査では、全身麻酔までは必要ないだろうという判断で、少しの麻酔で試されたのですが、やはり動いてしまい検査できませんでした。何か希望が持てるお話が聞けるかと期待をしておりましたが・・・。残念で仕方がなく、つい先生の前で泣いて困らせてしまいました。

つらい春でしたが、夏にはすっかり忘れて、鈴鹿サーキットの8耐に行き、なんとバイクに乗りました。ナオキの身体をバイクにしっかり固定して後ろに乗せていただき、元プロのレーサーやボランティアの方々の協力でレース場を1周しました。全国のボーイスカウトの方々と近くの高校生、ナオキひとりに4人も付いてくださいました。

いつまでも立ち止まってはられないので、何かを楽しみに毎日を送ると思っています。今は、来年、大阪ドームである、ナオキの好きなB'zのコンサートが当たるよう、息子とふたり、楽しみに待っています。

風邪やインフルエンザはやっていますので、どうぞお体気をつけて下さいね。



白いヘルメットがナオキくんです
(鈴鹿サーキットにて)

2009.11.13 刺激って大事ですね～

メールありがとうございます。とっても嬉しかったです。色々気にかけて下さってありがとうございます。

バイクに乗せてもらった日は、本当に近年まれにみるくらい意識レベルが高い日でした。いつもなら自分から何かをするということが無く、ボーッとしてみてもたれているのですが、バイクに乗せてもらえるとわかると、自分から車椅子から立ち上がり、笑顔をみせ、よだれもたれなかったです。前に乗っていたバイクレーサーの方も立ち上がった時はびっくりしてみえました。

やはり事故をする前に400CCのバイクに乗っていたので、その時のことを思い出し、「久しぶりのバイクや！」と思ったのかもしれませんが。レース場を1周しただけで、7、8分で戻ってきたのですが、戻ってきたとき、レーサーの方が「キョロキョロして、嬉しそうだった」とおっしゃってくれました。やはり刺激って大事ですね～。物から受ける刺激に、人からいただく刺激。言葉が無いので限られていますが、それでも今できることはしてやりたいと思っています。

2010.5.6 B'zのコンサートへ

暑くなったり寒くなったりで皆様お変わりございませんでしょうか？

今年の2月に大阪の京セラドームにB'zのコンサートに行きまして。友達と2人で行って来たのですが、付き添った友達がびっくりするほど意識がはっきりしていたみたいで、自分の知っている歌のさびの部分を書いてきたとのことでした。親も年老いてきて、いつまでこうして行動に移すことができるのかわかりませんが、今やれることをさせてやりたいと思っています。

この間、ナオキが一生懸命見ていた「西遊記」で、三蔵法師様が「生きるということは戦うこと。負けてもいいではないですか。負けることは失うことではない。逃げる事が失うこと、何もしないことが失うこと」と言っていた言葉が心に残りました。生きるために静かに戦おうと思っています。

2010.5.7 支えを得て前向きに

お知らせいただいたテレビ番組「きらっといきる」(高次脳機能障害の青年が仲間との交流で力を得る様子を放映)を拝見しました。仲間はほんとにいいですね。尚樹も友達を欲しがります。

今日は、「通所介護のケアプランができたので来て下さい」ということで通所介護まで行き、スタッフの方とお話をさせていただきました。ナオキのことを考えて色々試して下さいなど、努力していただいている様子がうかがえ本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

三蔵法師様の言葉、分かっていただいて嬉しいです。色々な事を犠牲にして、なかなか前向きにはなれなかったこともあります。人様の助言も素直に受け入れられないときもありました。でも、日々、皆様に助けていただいて少しずつ気持ちも前向きになってきました。

私どものような小さいことを、会報に載せていただくのは大変恐縮してしましますが、エコーの皆さんに、三重県にも仲間がいるよ！とわかっていただけたら、嬉しいです。

東京、愛知、山梨で、展示 - 遼平さんの 木枯らし

2010.4.7 村田一家と鑑賞 - 東京の国立新美術館で -

山梨の会員 村田遼平さんが今年も「水彩連盟展」に入選されました。現在同展が「国立新美術館」(港区)で開催されております。4日(日)に村田さんも上京されるということだったので、私も妻をつれて行ってきました。村田さんご家族(ご両親と遼平さん)と待ち合わせ、一緒に見学、昼食してきました。

(高橋俊夫：東京)

2010.4.30 - 娘と愛知芸術美術館へ -

水彩連盟展の巡回展が愛知県名古屋市の愛知芸術美術館(4月27日~5月2日)にやってきましたので、さっそく娘と観て来ました。遼平君の絵は「木枯らし」の題がついた抽象画でした。私には赤色系が目立って見えたのですが、あの色は落ち葉？それとも火？ そんな風に考えてみてはダメなのかな~？ 絵心のない私は、勝手に想像して観ました。描いた遼平君の解説つきで鑑賞できたら最高！と思ったことでした。

村田さん、とっても良い機会を頂き有り難うございました。

(豊田幸子：愛知)



リョウヘイ作「水彩連盟展」に入選 木枯らし

2010.4.30 - 今後も努力を -

おはようございます。村田遼平です。わざわざ見に行ってくださいありがとうございました。しかも雨の日に。感激です。またそちらのほうで展示されることがあれば招待状を送ります！そうなるよう努力、努力です。

(村田遼平：山梨)

2010.4.30 - 打ち込める趣味があるのは幸せ -

雨の中、息子の絵をお2人で見に行きまして下さりありがとうございます！ まだまだ先生の指導を受けている身です。それでも打ち込める趣味がある事は、本人にとってとても幸せと思っています。県内の公募展でも入選をしていますが、賞がまだで目標は入賞です。ではお礼まで

(村田淑子：山梨)



春うらら、こどもの国へ

3月30日、西田さんの呼びかけで横浜の「こどもの国」へ行ってきました。当日は、西田家2名、田辺さん、りょうさん、田川家2名、大島家2名、高橋（ま）さん、井上家2名、総勢11名の参加となりました。電車が事故で大幅に遅れるなどのアクシデントはありましたが、お昼頃にはみんなが集合し、集まってすぐのお昼ご飯となりました。

お弁当の後は、皆さんが持ち寄ったお菓子がとびかうなど、大満足の楽しいお昼ご飯でした。大人たちがお昼ご飯の後まったりしていると、ゆきちゃんとかうきは近くの遊具場にとんでいって遊んでいました。それから、牧場に移動し名物のアイスクリームを食べ、羊舎や牛舎のある場所に行き羊にえさをあげたりしました。その後、牧場から少しおりたところにある芝生に腰をすえ、ゆきちゃん、よしくん、かうきがバトミントンを始め、またまた大人はまったりと見学、廖さんがバトミントンに途中参加するなどしました。まだまだ名残惜しかったのですが、3時頃には終了し帰路につきました。

3月末にしては、肌寒く桜もまだまだの「こどもの国」でしたがお天気にも恵まれとても楽しい1日となりました。
(井上 聖子)

桜の花は、まだ2分咲きだったけど、春うららの好天気にも恵まれて、胸の奥深くまで春の空気を吸い込んだ一日でした。皆でワイワイとお弁当を食べ、動物達とのふれ合いや、おいしい牛乳やソフトクリームを食べ、優希ちゃんとバドミントンを楽しみ久しぶりに元気が出た一日でした。
(廖 明子)

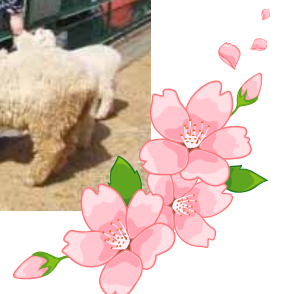
昨年末、天皇皇后両陛下のご成婚50周年記念に両陛下を始め、ご一家お揃いで横浜の「こどもの国」に（ご成婚記念に造られた自然公園）行かれたことをテレビのニュースで知りました。皆様と一緒にミニSLに乗られた時のニコニコととても楽しそうな様子が印象的で私も是非一度行きたいと思っていました。穏やかな陽差しの春の日に、久々にエコーの皆さんと「こどもの国」へ一緒することができ、木々の緑や花々に囲まれた広大な園内で、ゆったりとした時間を心ゆくまで楽しむことができました。もちろんロイヤルファミリーの笑顔に負けない位、エコーファミリーも笑顔に溢れた一日となりました。
(高橋 まり子)



エコーご一行様



羊と一緒に





2月25日、港区三田の三田共用会議所に於いて、第2回支援コーディネーター全国会議が開催された。都道府県により、支援事業への取り組みの格差があるといわれているが、先進的な都県の事例発表や、グループディスカッションなどが行われ情報の共有が図られた。全国のコーディネーターが一同に会する機会を提供することにより、自治体を超えた連携も見込まれ、全国的に支援の質を向上させることが狙い。

翌26日は、同所において、高次脳機能障害支援普及事業平成21年度第2回支援拠点等全国連絡協議会が開催された。国リハと全国10のブロックにより21年度の事業報告が行われ、国リハは22年度の事業計画を発表した。厚生労働省からは、22年度も21年度とほぼ同額で普及事業が継続されるとの説明があり、また、22年度中にも支援機関の未設置県はなくなるということであった。（4月末現在、全都道府県への設置が完了している）

午後は公開シンポジウムに移り、大阪府障害者自立相談支援センター・栗村由喜江氏が大阪府の支援ネットワーク作りの特徴と課題について講演。大阪の山口クリニック・山口研一郎氏が治療体験から、低酸素脳症等の重度者への対応（リハの場合がない）、MTBI（軽度外傷性脳損傷）が認知されていない、早期リハビリ、認知リハの充実が必要等、問題点や課題を挙げられた。日本脳外傷友の会・理事長・東川悦子氏が「高次脳機能障害者の生活実態調査と支援拠点機関の利用状況調査の結果 ～10年間で支援システムの確立はどこまで進んだか～」を発表。課題として＝親亡きあとの不安、重度・重複者の支援、子供の脳損傷、虐待児の増加、教育現場での認識不足を挙げられた。特に文部科学省は全く注目していない！と。そして制度改革への期待と、国リハには情報発信のセンターとしての機能充実を！でしめくくられた。

（高橋）

3月4日、サークル・フレンズとサークルエコーは連名で、厚労省・長妻大臣に宛て、高次脳機能障害の法への明記・必要なサービスと量の検討・「医療と福祉の連続したケア」を確立するためのモデル事業の実施・生活の自立を支援する施策として「指導

ヘルパー養成事業」の検討・医療従事者、教育関係者への浸透をはかり、ワンストップサービス等の地域生活体制を整備する「支援普及事業」の追加施策・重度者対策の取り組み等、高次脳機能障害者支援の充実に向けての要望書を提出した。

3月11日、第7回多摩高次脳機能障害者研究会講演会

この研究会は4年前、高次脳機能障害者をどう救うかという事で、病院が主体となって、診断・リハ・社会復帰を目指す事を目的に発足した（代表世話人 武蔵野赤十字病院長 富田博樹氏）ものです。今回は講演『精神科医からみた高次脳機能障害』と題し、埼玉医科大学総合医療センターメンタルクリニック教授 堀川直史氏から、主に外傷性脳損傷を主体に、精神障害者の診断と治療の現在を話された。講演では『各医療圏における取り組みの現状報告』として多摩地区の5つの医療圏の代表からの報告。

（高橋）

制度改革推進会議「総合福祉部会」開かれる。JT BIA 東川氏が委員に。

内閣府の「障がい者制度改革推進会議」が、障害者自立支援法に代わる「障がい者総合福祉法」（仮称）の在り方について議論する専門部会「総合福祉部会」の初会合が、4月27日、厚生労働省の講堂で開催された。委員は、障害者や家族などの団体幹部および有識者、行政の担当者ら55人。高次脳機能障害分野からNPO法人日本脳外傷友の会・理事長で日本障害者協議会副理事長の東川悦子氏が選任されたほか、発達障害および難病分野からも委員が加わった。障害各分野の代表たちが、来年度予算を視野にそれぞれの課題を指摘した。多人数の委員のため、課題の列举に留まったが、提出された資料等は厚生省のホームページで閲覧できる。同部会は、当面、月1回ほどの開催が予定されている。

一方、制度改革推進会議は、4月26日に、文部科学省・法務省・総務省、5月10日に、厚生労働省・総務省・国土交通省など、関係省庁のヒアリングが実施されてきている。

（田辺）

ギャラリー



良い天気気持ちいい
こどもの国にて



肩車って楽しいなあ～



こどもの国の牛乳とアイス！おいしいよー

ナノ便り

県の委託で行っている《ナノ》の
ピア・カウンセリング事業が紹介されました。

埼玉東 2010年(平成22年)3月12日(金) 毎日

「高次脳機能障害」の人と
家族が交流を深める場に
交通事故や転落、脳に、事故後、話がきかぬ、を共有することはない
卒中などで脳に損傷を、合わない、約束を忘れる、に前に進む勇気を持って
受け障がが残った「高次脳機能障害」の人たち、い、練習や腕力、な、と意欲を燃、23
ちと家族が互いの思い、どが思い当たる人の参、には、電話相談（030
を打ち明ける「ピア・加を呼びかけている。00・4759・71
カウンセリング」が16、参加無料で予約もいら、50）も実施する。
日13時から、伊奈町小、吉川市で2日におあ、友の会さま（「脳外傷
室の介護老人福祉施設、たア、カウンセリング、見町」が20日に所沢市、
「伊奈の里」で開かれ、クでは、17人が「幸せ、を提出中。問い合わせ
る。この障害は社会的、など」をテーマに話、カウンセリングを行、
理解されにくいため、し、市や保健所の担当、う、県は新年度支団
が孤独になりがちな、者も傍聴した。「何か、を委託する予定で、開
当事者や家族同士の交、をして人に感謝される、を、
流の場を用意した。のがうれしい」と話す、会中の講演会に予備家
員は昨年秋から県内、人がいる一方、家族が、を提出中。問い合わせ
の2家族団体に事業を、随書を書いて以来（幸、はナノ（048・9
委託。親戚部を任せられ、せというところは一度も、外福友の会（090
た「地域で共に生きる、ない」と吐露する人も、1844・221
ナノ（三郷市）は18、いた。代表の谷口鶴知、1844・221
日のカウンセリング、子さ（957）は「気持ち」。【船田佳代】

平成 21 年度決算報告書 サークルエコー （平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）

収入の部 単位：円

科 目	金 額	備 考
前期より繰越	339,865	預金 271,735 現金 68,130
会費	405,000	会費 55,000 賛助会費 350,000
寄付金	72,000	東京四谷ライオンズクラブ他
雑収入	51,600	記念誌代、会報売上他
助成金	100,000	TKK
合宿参加費	113,640	
受取利息	198	
合 計	1,082,303	

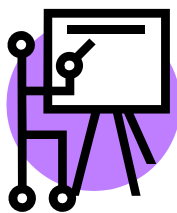
支出の部

科 目	金 額	備 考
活動費	307,885	サポート活動費、他団体会費、合宿費用
通信費	93,445	会報発送代、ホームページ関連他
印刷費	296,775	記念誌印刷、会報印刷、コピー代他
接待交際費	28,400	外部謝礼、外部慶弔
消耗品費	102,214	会報用紙、事務用品
旅費交通費	48,112	会合（運営会議等）
保険料	1,680	ボランティア保険
雑費	5,160	写真代他
合 計	883,671	
次期繰越	198,632	預金 190,633 現金 7,999

平成 22 年 5 月 1 日 上記の通り相違ありません。監査 村田淑子

サークルエコー行事&会合報告

- 2/26 高次脳機能障害者支援普及事業全国連絡協議会・港区/三田共用会議所（田辺、高橋）
2/28 高次脳機能障害講演&シンポジウム IN 逗子・・・逗子市役所（田川）
2/25 会報39号印刷・・・武蔵野市役所内/協働サロン（西田、高橋）
2/27 調布市高次脳機能障害講演会（橋本圭司医師）・・・調布市民プラザ/あくろす（井上）
2/27 えこーたいむ（会報39号発送作業）（西田2、高橋2、田川2、高橋（ま）、大島2）
2/28 TKK ボランティア講座・・・日本財団（田辺、西田2、高橋、村田（淑））
3/8 第6回高次脳機能障害者相談支援体制連携調整委員会・・・都心障4階会議室（田辺）
3/10 TKK 相談支援事業：家族相談交流会・・・都心障2階（田辺）
3/11 多摩高次脳機能障害研究会講演会・・・西国分寺/いずみホール（高橋2）
3/12 講演会『生活版ジョブコーチを理解する』・・・横須賀/シャローム（西田、田川）
3/12 TKK/日本財団の懇談・・・日本財団（田辺）
3/12 TKK/SW 編集者の懇談・・・メディカ出版・大門（田辺）
3/13 READ 公開講座「障害学と経済学のコラボに向けて」・・・東京大学・本郷（田辺）
3/18 会報作成分担について打合せ・・・田辺宅（田辺、西田2、高橋2）
3/20 会報40号打合せ・・・田辺宅（田辺2、西田2、高橋2、栗原2）
3/27 えこーたいむ（ドリームサロンに参加）・・・調布総合福祉センター
（田辺、西田2、高橋2、田川、井上3、福島先生）
3/28 マリン横須賀・・・久里浜/ゆんるり（田川）
3/30 こどもの国・・・横浜/青葉区（田辺、西田2、田川2、井上2、廖、高橋（ま）、大島2）
4/12 ゆんるり見学・・・久里浜（西田2、高橋2、田川2、福島先生）
4/15 取材（AERA）・・・狛江（田辺）
4/17 TKK 定例会&都担当者送別会・・・新宿/VIVID & 高田馬場（田辺、高橋2）
4/18 マリン横須賀・・・久里浜/ゆんるり（田川）
4/24 えこーたいむ・・・高橋宅（田辺2、西田2、高橋2、村田（淑）、井上2）
5/9 講演会「市民の声が社会を変える」朝日/伊藤千尋・・・狛江（田辺）
5/9 障定協総会・・・新宿/戸山サンライズ（高橋2）
5/13 TKK 事業実行委員会（田辺、高橋）
5/18 (改革推進会議)総合福祉部会（傍聴）・・・厚労省講堂（田辺）
5/22 サポート研の研修会・・・横浜（田辺）
5/23 高次脳機能障害講演会（納谷敦夫氏）・・・神田（田辺、西田2、高橋2）



理解を求めて
～会員の広報活動～

- 田辺和子 「ノーマライゼーション」4月号・ワールドナウ欄に、昨年TKKの視察研修で得た、スウェーデンの脳損傷者支援の実際とその精神を述べた。
- 村田淑子 5月17日、山梨の「健康科学大学」で講義。ビデオの使用と高次脳機能障害者と家族が生活する上での困難な事や課題について10周年記念誌の記事を中心に話した。
- 谷口眞知子 「介護保険情報」（社会保険研究所刊）5月号に「埼玉県が高次脳機能障害者を支援出前型のピア・カウンセリングを家族会ナノが展開」とするレポートが掲載された。
- 田辺和子 週刊誌「AERA」（朝日新聞社）5月17日刊の「意識戻らぬ娘、回復願う父母」に低酸素脳症による高次脳機能障害についてコメント。



《脳外傷友の会 第10全国大会 2010inなら》

6月25日(金)交流会 26日(土)講演・シンポジウム 場所:奈良県文化会館
大会テーマ: ~安心~ 当事者も、家族も、地域の人々も、現在も未来も

《TKK 高次脳機能障害者のための「家族相談交流会」6/9・7/3・8/11・9/4》

いずれも13:30~15:30 場所:東京都心身障害者福祉センター
問合せ先:090-6522-1973(矢野)

《朝日新聞厚生事業団主催の講演会 「高次脳機能障害を理解する~私たちにできること」》

7月18日(日)午後1時~:福岡市博多区中洲5-6-20 明治安田生命福岡ビル
7月25日(日)午後1時~:名古屋市中区栄1-3-3 朝日新聞名古屋本社朝日ホール
詳しくは:<http://www.asahi-welfare.or.jp/>



ご支援ありがとうございました



2010年3月~5月までに寄付、賛助会費をお寄せくださった方々です。(順不同・敬称略)

鈴木 和子	児玉 桂子	馬場 真弓	中田 文枝	佐藤 佳枝
戸舘 亜輝男	門脇 弘子	佐藤 節子	横山 幸子	粉川 靖子
矢田 正幸	谷 みどり	中條 共子	小出 喜美枝	平野 よう子
山岸 すみ子	柴田 玲子	福島 誠	伯耆 定代	斎藤 紀久男
七五三 いよ子	平野 美香	広川 幸子	谷田部 良子	吉田 笄子
玉井 由紀	三浦 卓	西田 均	吉川 ひろみ	大沢 一男

入会のご案内

「正会員(当事者・家族)」
入会金 1,000円
年会費 3,000円

今年度も賛助会費のご協力よろしく申し上げます。
年会費(4月~3月)1口 2,000円
郵便振替 00180-0-546112 サークルエコ

発行人 編集人

東京都狛江市元和泉 二七
高次脳機能障害を考えるサークルエコ
東京都世田谷区砧 六二六二一
特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会 定価 百円

2010年6月~7月 活動予定

- ・えこーたいむ・・・6/26、7/24
- ・多摩エコ・・・随時
- ・ナノ 三郷市・・・随時
- ・フレンズハウス 瀬戸市・・・毎週月曜、火曜、土曜 第1・3金曜



編集後記 今号にて初めて編集を担当させていただきました。
見やすく、思いのつたわる紙面になっていれば幸いです。
お気づきの点がございましたら、お知らせください。

K.Ayako

サークルエコ連絡先

田辺 和子	〒201-0013 東京都狛江市元和泉 2-7-1	Tel/Fax:03-3430-8937
谷口 眞知子(ナノ)	〒341-0044 埼玉県三郷市戸ヶ崎 2193-1	Tel/Fax: 048-956-2224
豊田 幸子(フレンズ)	〒489-0987 愛知県瀬戸市西山町 1-60-20	Tel/Fax: 0561-82-1498